

委員からの主な意見と対応状況（未来分野）

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
1 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援の推進		
第1回 未来部会	仕事を一生懸命やってキャリアを積んで気が付いた時には、高齢出産と言われる年齢に達していることがあるので、子どもを持つ人生を望む場合は、若年期からイメージして、それに適した年齢があるということを学校教育の中で触れる必要があるのではないか。	子どもの段階からライフプランの一要素として、出産や子育てなどについて考えていくことは大変重要であり、取組みの基本方向に「若い頃からの人生設計について考える機会を充実させる」と記載したほか、ライフプラン教育の推進については【主な施策】にも記載。
第1回 未来部会	企業内にも男性の独身が多く、危機感を持っている。男女の仲というのはなかなか難しいもので、結婚支援はいろいろなことをやって初めて、成果に結びつくと思う。	【主な施策】の1において、「結婚支援体制の強化」及び「男女の出逢いをサポートする活動の支援」を記載。ご意見の趣旨を踏まえ、今後も、市町村、企業・団体等で連携・ネットワークを構築するなどにより、結婚支援体制の一層の強化を推進してまいりたい。
第1回 未来部会	育児と高齢者の面倒を見るということは同じことだと思う。女性は同じ時間を取られてしまっている。家庭科できちんと男の子たちが掃除・洗濯・料理ができるように。とにかく小学生から当たり前と思うことが重要。	家庭科の授業においては、衣・食・住に関する学習だけでなく、家庭生活での仕事や役割を男女を問わず学んでいる。未来1の【主な施策】の2において、「生徒の発達の段階に応じたライフプラン教育の実施」を記載しており、H28年度、中学生向けにライフプラン教育に関する小冊子も作成・配布しているところである。ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き、結婚・出産も含めた自分の将来像を考える学習を進めてまいりたい。
第2回 未来部会	とやまマリッジサポートセンターの取組で、仕事を続けたい女性と家事・育児は得意という男性とのマッチングを謳うなど、既存の価値観にとらわれない婚活パーティーもあればよい。	ご提案の趣旨を踏まえ、【主な施策】の1において、企業・団体・ボランティアなどへの支援施策の具体例として「出会いイベントなど」を追加。今後も結婚を希望する男女の希望にきめ細かく対応するよう努めてまいりたい。
第2回 未来部会	子どもを持つ幸せ、家族と生活することの充実感について啓発するなど、子育てを前向きに考えられる施策の推進が望ましい。	【主な施策】の1において、「若者へ結婚や家庭を持つ意義や喜びを伝える取組みの推進」を記載。ご意見の趣旨を踏まえ、今後も、若者を対象に、結婚・家庭の持つ意義について理解が進むよう啓発してまいりたい。
第2回 未来部会	人権やいのちの大切さ、性教育など年齢によってどう教えていくかが違うので、現在横軸で記載されているものを、縦軸に整理することも必要。	未来1の【主な施策】の2において、「生徒の発達の段階に応じたライフプラン教育の実施」を記載しているが、未来9の【主な施策】の2においても、「自らの生き方を考えさせるキャリア教育やライフプラン教育の充実」を追記。今後とも、ご意見の趣旨を踏まえ、ライフプラン教育の充実を図ってまいりたい。
2 保育サービスの拡充など積極的な子育て支援等の展開		
第1回 未来部会	家庭、地域を巻き込んだ子育て支援の実施には、県と市町村との連携をもっと密にしてもらおうとともに、家庭地域で子育て支援を行う既存の団体の活動促進が重要。	子育て支援は、住民に身近な市町村が実施主体であり、県は市町村を支援しているが、県と市町村は担当者会議等により情報共有など緊密な連携を図ることとしている。また、子育て支援を行う既存団体の活動促進については、【主な施策】の3において、「地域住民による子育て支援の促進」について記載しており、ご意見の趣旨を踏まえ、児童の健全育成のため地域活動を行っている児童クラブや母親クラブなどに対する活動支援や、子育てサークルの交流機会の提供など、地域における子育て支援に引き続き取り組んでまいりたい。
第1回 青年 委員会	親の助けがなければ仕事の両立が難しい面がある。シングルマザーや、共働き家庭にとっては、パートナーの協力ももちろん大事だが、パートナー以外に頼れる場や資源が必要。資源の広報にも力をいれていただきたい。	子育てにあたっては、地域や社会全体による支えが必要であり、【主な施策】の「1 多様な保育サービスや放課後児童クラブの拡充」から「4 社会全体で子育て支援の気運醸成」までの各施策を総合的に取組み、今後とも、市町村等との連携を図りながら、仕事と子育ての両立を支援してまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第1回 青年 委員会	待機児童ゼロというが、これは親の希望を抜きにした数字。現実を見て引き続き取組みを進めてほしい。	各地域における保育所や認定こども園などの保育等の提供体制については、保育の実施主体である市町村が策定する子ども・子育て支援事業計画において定め、地域の実情を踏まえて施設の整備にあたっておられるところである。 保育環境の充実にあたっては、保育施設の整備に加え、保育士等の確保が重要となることから、県では、【主な施策】の1で「年度途中入所の増加に対応するための保育士確保を支援」するとともに、安心10の【主な施策】の「5 保育士等の人材確保と就業継続の支援」に記載の施策により、待機児童ゼロを維持してまいりたい。
第2回 未来部会	アメリカでは、妊婦さんの産婦人科への送り迎えや栄養のある食事の提供、いつでも親が子どもの様子を見られるよう保育園内に複数台のカメラを導入など、安心して子育てができる環境が整っている。こういった内容が施策に盛り込まれるとよい。	安心して子育てができる環境整備については、未来1の【主な施策】の「4 母と子の健康づくりへの支援」及び未来2の【主な施策】にその方向性を記載。 妊娠期の健康管理指導や栄養指導については、市町村において住民のニーズを踏まえて実施されており、県でも引き続き市町村に対する技術的支援や人材育成等を行ってまいりたい。 保育所等の環境整備については、提案の趣旨を踏まえ、子育て家庭のニーズの把握に努め、多様な保育サービスの拡充を図ってまいりたい。
第2回 未来部会	働いている母親が、幼少の子供を祖父母に預けると、「子供が預けられてかわいそう、もっと早く帰ってあげられないのか」などと思われたり、言われたりすることがある。周りの支援者側の教育も必要。	【主な施策】の「3 地域住民による子育て支援の促進」や「4 社会全体で子育て支援の気運醸成」に記載のとおり、子どもの成長や子育てを応援する社会全体の意識醸成を図ってまいりたい。
3 仕事と子育てを両立できる職場環境づくり		
第1回 未来部会	共働きの女性が子育てと家庭と仕事を担い40代の母親の負担が一番重いという統計もあり、何らかのサポートが必要。	仕事と子育てを両立できる環境づくりのためには、保育サービスの充実や、働き方の見直しや職場の理解促進、男性の家事・育児参画など多様な取組みを実施し、母親の育児負担を軽減を図る必要があり、これらの趣旨を未来3及び人づくり7「女性が能力を發揮でき、安心して働き続けられる環境づくり」に記載。重点戦略においても、少子高齢化・人口減少時代において、様々な世代が意欲的に働き、また社会参画できるよう取り組むこととしている。
第1回 青年 委員会	育児休業が与えられないという企業も多い。保護者にとって病児保育は都合がよいが、子ども目線で本当に子育て環境にとって何が求められるか安心して育てる環境を優先すべき。	仕事と子育てを両立し、安心して子育てできる環境づくりのためには、保育サービスの充実や、働き方の見直し、職場の理解促進、男性の家事・育児参画など多様な取組みを実施する必要であり、これらの趣旨を未来3及び人づくり7「女性が能力を發揮でき、安心して働き続けられる環境づくり」に記載。
第1回 未来部会	富山県は中小企業の割合が非常に多いことから、企業、上司の理解を得ながら、仕事と子育ての両立支援制度が普及していかないと支えることが難しいのではないかと。	仕事と子育ての両立支援制度の普及へ向けた職場の意識改革の必要性については、未来3の【主な施策】の2において、「企業の意識改革の推進」について記載。 また、人づくり10の【主な施策】においても企業戦略としての働き方改革の必要性について記載。
第1回 未来部会	男性の育児休業取得率が依然低い状況にあると言いつつも、26～27年に急に上昇しているのは何か方策、対策を取ったからではないか？	男性の育児休業取得率上昇の原因となった取組みを個別にあげることは難しいが、県がこれまで県内企業に対して行ってきた一般事業主行動計画の策定支援やイクボスに関する取組み等の意識啓発などもきっかけとなり、自主的な取組みをはじめている企業も出てきているのではないかと考えられる。 今後とも、【主な施策】の3に記載している「男性の家事・育児への参画の促進」に努めてまいりたい。
第1回 未来部会	子育て支援の優良事例を広くPRすることが必要。あまり知られていない。「企業子宝率」に基づく優良事例を表彰する取組みは良いが、零細事業者は実践するのが大変ではないか。	【主な施策】の2において、優良事例の紹介による他企業への普及啓発について記載。 企業子宝率調査においては、小規模の企業も含め企業別に優れた取組みを行っている企業を表彰しており、リーフレットやHPなどで受賞企業の取組みを紹介し、普及啓発してまいりたい。
第2回 未来部会	経営者のイクボス宣言が重要。経営者側が「ボス」として若者を育成していかなければならず、トップがイクボス宣言する環境づくりについても加えてほしい。	未来3の【主な施策】の2において、「企業の意識改革の推進」について記載。 また、人づくり10「がんばる働き盛りなどへの積極的な支援」の【主な施策】において、仕事と子育てが両立しやすい職場環境づくりを記載。 「イクボス企業同盟とやま」が発足したところであり、トップがイクボス宣言する環境づくりなどに努めてまいりたい。

会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
第2回 未来部会	近年、働き方改革とか女性の社会進出などが言われているが、上司の意識改革が重要。事業主に向けた意識啓発についてももう少し触れてほしい。	未来3の【主な施策】の2において、「企業の意識改革の推進」について記載。 また、人づくり8「女性のキャリアアップ、管理職への積極的な登用などの推進」の【主な施策】の3において「企業や経済団体、関係機関等と連携し、女性が活躍できる職場環境づくりの推進」を、人づくり10「がんばる働き盛りなどへの積極的な支援」の【主な施策】の3において「働き方改革の推進」として企業経営者の意識啓発に関して記載。
4 子育て家庭などの経済的負担の軽減		
第1回 未来部会	人口は全ての基本であり、他県では出産祝金、医療費保育料軽減など手厚い支援で出生率を一気に上げた事例もあり、思い切った対策が必要。	今年度、子育て家庭のニーズにマッチした、より効果的な施策について、子育て支援・少子化対策県民会議等において、議論していただくこととしている。子育て世代などへの経済的な支援については、ご意見の趣旨を踏まえ施策を推進してまいりたい。
第1回 青年 委員会	3人目の保育料は無料になっているが、所得制限があるため、所得増で逆に負担が増える人もいる。3人目を育てるだけで社会貢献しているともいえるので、所得に関わらず負担軽減すべきではないか。	限られた財源のなかで、特に経済的負担の重い多子世帯を重点的に支援している。 国においても段階的に幼児教育・保育の無償化に取り組みられており、今後とも国に対し、多子世帯の保育料軽減に係る所得制限の引き上げなど、保育料軽減の拡充を働きかけてまいりたい。
第2回 未来部会	「核家族化や都市化の進行等により」という文言があるが、この現状を受け入れるだけではなく、親の近くに子どもが住む形、三世帯同居を進めるような施策を進めることが重要。まずは自助・互助ではないか。	【主な施策】の3において、三世帯同居を推進する施策(実質無利子融資や不動産取得税の減免制度の拡充など)を記載。今後も、ご意見の趣旨を踏まえ、施策を推進してまいりたい。
5 子どもの健やかな成長支援		
第2回 未来部会	スマートフォンの記載があるが、害ばかりでなく有益なこともたくさんある。学校教育の中でも、有効性や弊害をあわせて教えていく必要がある。	未来5の【主な施策】の3において、「スマートフォンやSNSなどの適切な利用方法と情報技術が急速に進化していく時代にふさわしい情報モラルを学ぶ教育の充実」を追加するとともに、未来10の【主な施策】の1において、「学校、家庭、地域が連携したスマートフォンなどの適切な利用を呼びかけるPTA活動への支援」を記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後ともこれらの取組みを推進してまいりたい。
6 少人数指導と少人数学級の組合せ等による充実した教育の推進		
第1回 未来部会	35人学級を4年生まで引き上げていただきたい、と同時に教員の確保と先生方の資質向上をお願いしたい。	未来6の【主な施策】の1に「小学校1・2年生の35人学級に加え、小学校3・4年生の35人学級選択制の実施」を記載している。少人数指導と少人数学級それぞれのよさを取り入れた効果的な少人数教育を実施していくという基本スタンスのもと、平成29年度より、35人学級選択制を4年生に拡充したところである。 また、未来9の【主な施策】の3には「教職員のキャリアステップと研修ニーズに対応した教職員研修の充実」を記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、上記の各施策の取組みを推進してまいりたい。
第1回 青年 委員会	言葉ができればそれでグローバル人材かと言われるのではなく、一番大事なことは多様な価値観や考え方、文化、習慣を知って理解して認め合うこと。その上での語学教育がある。つまり、多様性を育むこと、そしてその多様性を生かすという観点で、もう少し必要。富山で生まれた外国人も多く、「富山県民」として活かしていくべき。	未来6の【主な施策】の2において、「海外の国との相互理解と友好親善に寄与する人材育成のための高校生の海外留学・派遣を支援」を記載。 また、未来23の【主な施策】の1において「外国人住民の地域参加の促進及び外国人住民との橋渡し役となれる外国人キーパーソンの育成」について記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、多様性(ダイバーシティ)の観点からも、多文化共生の地域づくりなど、各施策の取組みを推進してまいりたい。
第1回 総合部会	企業と人材を支えていくものとして、グローバル化がこれからどんどん進んでいく。そういう意味では、人材の育成として、異文化共生に関するグローバル教育への注力が今後必要になってくるのではないか。	【取組みの基本方向】において、「グローバル化に対応した、海外留学、国際交流など、特徴ある教育環境の整備」や「ALT等の活用による教育課題への対応」を掲げ、【主な施策】の2において、小学校の英語教科化に対応するための専科教員の配置などによる専科指導の実施について記載。 今後とも、グローバル教育にしっかりと取り組んでまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
7 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実		
第1回 青年 委員会	特別支援学校、ひきこもりの子など多様性を受け入れて、生活しやすく、力を発揮できるような県づくりが重要。	【取組みの基本方向】において、インクルーシブ教育システムの充実について記載。 障害のある子供たちへの教育にとどまらず、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して社会に参加し、支え合う「共生社会」の形成には、インクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に推進してまいりたい。
8 いじめ・不登校対策と人権を大切にすの心育成		
第1回 未来部会	子どもの教育には、教師のみではなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他の複数職種による支援が重要であり、配置の充実・手法のスキルアップを盛り込むべき。	【取組みの基本方向】において、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の活用や早期対応のための教育相談体制の充実」を記載。 今後とも、各施策の取組みを推進してまいりたい。
第2回 未来部会	「いのちを大切にす」教育について、自分自身を大切にすの自己肯定感やたくましさを持てるような施策も目標に盛り込んでほしい。	【取組みの基本方向】において、「いのちを大切にすの心や思いやりを育む教育の充実」を掲げ、【主な施策】の2において、いのちの大切さを学ぶ「いのちの授業」の実施や「いのちのメッセージカード」の活用について記載している。 ご提言の趣旨を踏まえ、今後とも、いのちを大切にすの教育の取組みを推進してまいりたい。
第2回 未来部会	未来9で「キャリア教育」というキーワードが使われているのと同様に、いじめや人権に関しての政策においても、「福祉教育」という文言を盛り込んでいただきたい。福祉教育はとも生きるというニュアンスのなかで語られるものである。	文部科学省では「いじめに取り組む姿勢は人権尊重の精神を貫いた教育活動を展開すること」と示しており、未来8のキーワードは人権教育と考えている。 ご提案の趣旨については、取組みの基本方向にある「いのちを大切にすの心や思いやりを育む教育」に含め、施策を推進してまいりたい。
9 子どもの可能性を伸ばす教育の推進		
第1回 活力部会	AIなどが進めば、人間の仕事がロボットに置き換えられたり自動化して、労働時間も激減するといわれている今こそ、基礎学力をしっかりと身に付けることが大切。	本県は、全国学力学習状況調査において全国トップクラスの結果を残している。基礎的・基本的知識学力について【主な施策】の1において「確かな学力の育成」について記載しており、今後とも、基礎学力の定着をしっかりと図るとともに、論理的思考力や情報活用能力を身に付ける取組みを充実してまいりたい。
第1回 未来部会	シリコンバレーの富裕層は昔からの読み書き算数、そして物事を考える教育を行っている。人と人と連携させたり、物と物を連携させてという、アナログでやってきたことが、ITのプラットフォームで可能となっているが、やはりもともとが非常に重要。アナログをしっかりと教育することが大事。	【主な施策】の1において「確かな学力の育成」について記載し、今後とも、基礎学力の定着をしっかりと図るとともに、論理的思考力や情報活用能力を身に付ける取組みを充実してまいりたい。
第1回 未来部会	養護教諭の負担が増加している。子どもの健全な成長のために、長い時間を過ごす学校にも少し人とお金をかけることが重要。	【主な施策】の3において、「今後の大量退職を見据えた教員の計画的な採用」や「とやま学校多忙化解消の推進方針」に基づく、教員が児童生徒と向き合いやすい環境整備の推進を記載している。 また、本年6月に示された政府の「骨太方針2017」でも、「教員長時間勤務の状況を早急に是正することとし、年末までに緊急対策を取りまとめる。」とされたところでもあり、こうした国の動向も注視してまいりたい。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後とも養護教諭を含めた教員の多忙化解消の実効性が上がるよう、取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	SNSなどのネット時代にあつて、子ども達には長い文章を読解し、人に説明する力をつけさせることが今まで以上に重要。	【取組みの基本方向】において、思考力・判断力・表現力の育成について記載している。 学校では、授業において、自分の意見や調査結果をわかりやすく文章に書かせたり、新聞を活用したりした授業を通して、読解力・思考力・表現力の伸長に努めており、今後とも継続的に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	「社会に学ぶ14歳の挑戦」は、コミュニケーションや、挨拶の仕方、人と協力することの重要性、責任感、充実感を得られる貴重な体験であり、継続すべき。県民の方々にも温かな目で、この中学生の14歳の挑戦を見てほしい。	【主な施策】の2において、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」など、道徳性や社会性を育む教育の充実」を記載しており、全国に誇るべきこの事業を今後とも長く継続したいと考えており、平成29年度も県下全中学校2年生を対象に実施しているところである。 今後とも、市町村教育委員会や受入事業所と連携して、改善すべき点は改善し、県民の方々の協力を得ながら事業の実施に努めてまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第2回 未来部会	課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成が大事になっていく。他県では新聞を読み比べなどで活用し、学力を向上させている自治体もある。	【主な施策】の1において、確かな学力の育成について記載している。また、人づくり1「優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成」び2「チャレンジ精神あふれる、困難にくじけない子どもの育成」の【取組みの基本方向】にも課題解決に必要な能力の育成について記載している。 新聞を活用した学力の向上については、思考力・表現力を伸ばすため、自分の意見や調査結果をわかりやすく文章に書かせる指導などを行っている。また、授業に新聞を活用する研究校を指定し、読解力などに関する研究成果の普及にも努めている。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後も新聞の活用も含め、学力の向上に取り組んでまいりたい。
第2回 未来部会	学校の先生は非常に忙しく、さらに資質向上と言うことは酷な話。もっと余裕を持って子どもに向き合えるような施策を考えてもらいたい。	【主な施策】の3において、「Tとやま学校多忙化解消の推進方針」に基づく、教員が児童生徒と向き合いやすい環境整備の推進」を記載している。 また、本年6月に示された政府の「骨太方針2017」でも、「教員長時間勤務の状況を早急に是正することし、年末までに緊急対策を取りまとめる。」とされたところでもあり、こうした国の動向も注視してまいりたい。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後も教員の多忙化解消の実効が上がるよう、取り組んでまいりたい。
第2回 未来部会	教員の多忙化解消に、部活動の担当を外部委託するとよい。子供たちの視野も広がる。プロになるためだけでなく大人なっても教える側に回れる例があることを理解することにも繋がる。	【主な施策】の3に「外部人材の活用」を記載。 県では、生徒の運動部活動における多様なニーズにこたえるため、また教員の部活動指導の負担感を減らすために、現在外部人材を活用し620名(中学450名、県立学校170名)のスポーツエキスパートを派遣している。4月1日付で「部活動指導員」が法的に位置づけられ、外部指導者が学校職員として部活動指導に当たることが可能となったところであるが、この部活動指導員制度については、関係者、関係団体が数多くあることから、こうした方々の意見を十分にお聞きしながら、具体的な施策の内容について検討を行ってまいりたい。
10 家庭・地域の教育力の向上		
第1回 未来部会	「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭地域の教育力の向上」とあるが、学校教育にウエイトが行き過ぎている。真の人間力のどのあたりを家庭が担うのかということも含め、学校と家庭地域の連携を改めて見直す必要がある。「真の人間力を育む家庭、地域の協力」の方が良いかと。	【取組みの基本方向】において「基本的な人格形成の場である家庭の教育力の向上」について記載。 ご提言の趣旨にあるよう、本来、子供は家庭の中で、親の深い愛情とふれあいを通して、豊かな人間性を育むことが望ましく、少子化や核家族化が進展する中で、学校、家庭、地域、企業が連携し、地域全体で子供を育む教育環境づくりを進めることが重要である。 県は、これまでも家庭、地域等と連携し、「14歳の挑戦」「放課後子ども教室」「親学び講座」を実施しており、ご提言の趣旨を踏まえ、今後も地域の方々の協力を得ながら、真の人間力を育んでまいりたい。
第2回 未来部会	退職した教員が退職後2、3年程度は子育てに役立つ、子供たちの力になるような仕事をしてもらえると、大変安心である。	【主な施策】の1において、「教員OB等の学習支援ボランティアがひとり親家庭の児童生徒に対し、塾形式で行う学習支援の推進を記載。
第2回 未来部会	家庭・企業・地域間の連携の取り方をわかりやすく示すことも重要ではないか。	【主な施策】の1において、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」など、家庭、地域、企業で道徳性や社会性を育む教育の充実を追加するとともに、【主な施策】の3において、企業における家庭教育講座の開催について記載。
第2回 未来部会	地域の中でいきいきと子供たちが育つことを推進している地域コーディネーターを養成してもらいたい。	【主な施策】の1において、「市町村が実施する地域コーディネーターの養成を支援」を記載。
第1回 総合部会	親教育に力を入れ、家庭・学校・地域で強化する富山発のモラルシンキング教育というものがあるのもよいのではないかと。	【取組みの基本方向】において、「基本的な人格形成の場である家庭の教育力の向上」を記載している。 県では、親のあり方や子供の接し方について、グループワークを通じて学ぶ「親学び講座」を平成18年度から実施している。今後も、家庭、学校、地域が連携し、親自身の心の成長やモラルの向上、子供のモラル向上につながる講座の推進に努めてまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
1 1 大学教育の振興とコンソーシアム等の活性化		
第1回 活力部会	観光人口もさることながら、定住人口の拡大が大事。定住人口の増大という観点から、(1)Uターンサポート、(2)企業の誘致、(3)学校の誘致などに積極的に取り組んでほしい。	大学の誘致については、【主な施策】の2「高等教育機関による地域連携や地方創生の取組みへの支援」などにおける個別施策の中で検討してまいりたい。
1 3 生涯にわたる多様な学びの推進		
第1回 未来部会	生涯学習は、学習者の活躍の場の提供、開拓が必要。その意味で活躍の場としての企業との連携も大切である。	【主な施策】の2において「県民生涯学習カレッジの地域人材を活用したふるさと学習等の指導者養成や学習者の活躍の場の提供」を記載している。 ご意見の趣旨を踏まえ、上記の施策の取組みを推進してまいりたい。
第1回 未来部会	ふるさと学習もそうだが生涯学習は、活字だけで行うのではなく、地域、家庭、学校と企業という連携して次世代に引き継ぐという観点から、直接フェイストゥフェイスで繋がっていくことが大切。	【取組みの基本方向】に「県民にとって身近な学習機会に関する情報提供の充実や、学習成果を学校、地域、企業等と連携して地域づくりなどに活用する「学び」と「活動」が循環する環境の整備」を記載している。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後も、学校、地域、家庭や企業が連携した学習環境の整備に努めてまいりたい。
第2回 未来部会	政策目標に「活用」とあるが「活躍の場を提供していること」としてはどうか。ベクトルによる違いだが、デリケートな部分でもあるため言葉の使い方に注意が必要。	政策目標を「…その成果を地域で還元し、活躍の場が提供されていること。」に修正。
第2回 未来部会	学習機会の提供と活躍の場の提供を両輪で考えていく必要がある。(合わせて記載してはどうか)	ご提案の趣旨を踏まえ、【取組みの基本方向】に「…「学び」と「活動」が循環する環境を整備します」を記載。今後、施策を充実してまいりたい。
第2回 未来部会	政策名が、「生涯をとoshた多様な学びの推進」となっているが、最近「生涯にわたる」という言葉が使われ始めている。	「始めから終わりまで(続く)」の意の「とおした」に対し、「長い期間(に及ぶ)」の意の「わたる」がよりふさわしいと考えられることから、「生涯にわたる…」に修正。
1 4 ふるさとを学び楽しむ環境づくり		
第1回 活力部会	子どもたちが富山の魅力に接する体験する機会を設けることで、県に愛着を持ち、県外への流出を食い止めることにつながるのでは。	ふるさと富山に誇りと愛着を持つ人材育成のため、様々なふるさと学習の取組みを推進している。 【主な施策】の2においては、「子どもたちが家族と一緒に地域の人々と交流しながら参加するふるさとの学びや身近な自然体験活動の推進」を記載。 また、安心7【主な施策】4には「子どもを持つ保護者世代へのクッキングセミナー開催や農林漁業体験などによる食に関する実体験の機会の提供」を記載。 さらに、人づくり3「家族や地域の絆、ふるさとを大切に子どもを育てる」【主な施策】3では「郷土の自然、歴史・文化を学ぶふるさと学習の推進」を記載。 平成29年度には、新たに作成した小学生向けの富山の自然を通じて科学的な考え方を養う副読本を活用した事業を実施しており、ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き、ふるさと富山に誇りと愛着を持つ人材育成に努めてまいりたい。
第1回 活力部会	子どもたちに富山のすばらしさを知ってもらい、県外に行っても堂々と言ってもらえること、こういう子どもが増えることが地方創生の早道である。高岡では伝統産業を理解してもらおうと「ものづくりデザイン科」という授業を10年やっている。もっとこういう機会を県として増やしてもらいたい。	子どもたちに富山のすばらしさを知ってもらうことは大変重要である。未来14<主な施策>に記載しているとおり、小中学校においては、県が独自で作成した「ふるさととやまの人物ものがたり」や市町村が作成している郷土学習教材を活用した地域学習を行い、富山県や住んでいる地域の良さを学んでいる。さらにH28年度には富山の自然や技術を素材として、子どもたちの自然や科学に対する興味関心を高め、科学的な見方や考え方を育成するための小学生向けの副読本を作成し、今後、活用することとしている。 高校においては、県独自の補助教材、「高校生のためのふるさと富山」を用いた郷土史・日本史学習を実施しており、ご提案の趣旨を踏まえ、今後ともふるさとに誇りと愛着を持ち、本来の郷土を支える人材の育成に努めてまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第1回 青年 委員会	ツアー企画をしているが、県内の人でも立山に登るのが初めてという人も多い。ふるさと学習や学校地域の行事で組み入れてはどうか。将来富山に戻って活躍する人材が増えるのではないか。	子どもたちに富山のすばらしさを知ってもらうことは大変重要であり、未来14の【主な施策】において、「立山登山など子どもたちが親や家族と一緒に地域の人々と交流しながら参加するふるさとの学びや身近な自然体験活動の推進」を記載。 ご提案の立山登山については、「集団登山引率者講習会」の充実を図ることとしており、立山や登山の魅力を児童生徒に伝えられる引率者の育成、資質の向上に努めてまいりたい。 なお、公民館活動として、南砺市井波公民館では、7月に地域住民を対象に立山登山を実施しており、57名が立山の魅力を学んでいる。
第1回 青年 委員会	地元出身でない先生によるふるさと学習は話の広がりには限界があるので、小中学校でもっと地域の人材をうまく使うなど工夫してはどうか。	【主な施策】1において、学校におけるふるさと学習の推進を記載している。ご提案の内容については、これまでも、学校におけるふるさと学習において、家庭や地域の方をゲスト・ティーチャーとして招聘し、地域の文化や産業、自然などに関する指導していただいている。今後とも、地域人材を活用したふるさと学習の推進に努めてまいりたい。
第1回 未来部会	高志の国文学館にある多数の収蔵品の利用を進めることが重要。同人誌会などの力を取り込むことも必要。	【主な施策】の3において、文学館を拠点としたふるさと文学の振興について記載している。 ご提言を踏まえ、今後とも、収蔵作品を含め、ふるさと文学に親しみ、学ぶ機会等の充実にも努めてまいりたい。
15 県民が芸術文化と出会い、親しむ環境づくり		
第1回 未来部会	若者・働き盛りの(1)文化・(2)スポーツに触れる機会が都会に比べて不足しており、機会を増やしていくことが必要。	【取組みの基本方向】において、芸術文化を鑑賞する機会の充実について記載している。 富山県美術館をはじめとする県立文化施設において魅力ある企画展を開催するなど、引き続き、身近なところで優れた文化を鑑賞できる機会の充実にも努めてまいりたい。
第2回 未来部会	社会教育法、博物館法に基づく美術館は博物館施設になる。美術教育など「教育」という文言を入れてほしい。	【主な施策】の2において、施策として「富山県美術館において、学校教育と連携し、県内の小学生を対象とした対話型の鑑賞授業と創作体験による「美術のおもしろさ」を体験してもらう取組みの推進」を記載。
16 県民が芸術文化の創造に参加し、交流する機会の充実		
第1回 未来部会	子どもたちが早いうちにアートに触れるワークショップなどの事業を全県的に行うことが大切。	【主な施策】の2において、双方向の美術体験の機会の充実について記載。 富山県美術館のアトリエやギャラリーを活用した教育普及活動を展開することとしており、県内の小学5年生を招いて、対話型鑑賞授業とアトリエでの創作を体験してもらう事業(美術館へおいでよ事業)を実施する。
第1回 未来部会	富山県美術館では地元アーティストによるアートとデザインの力を借りて新たな時代が始まることを期待している。	【主な施策】の2において、双方向の美術体験の機会の充実について記載している。 富山県美術館においては、鑑賞だけでなく、「見る」「創る」「学ぶ」という双方向の美術体験活動を展開することとしており、県内外の作家や富山大学芸術文化学部など幅広い方々との連携・協力を図りながら取り組んでまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第1回 未来部会	芸術文化学部の方に美術館の情報がなかなか入ってきていない。美術館とも連携を図っていききたい。	【主な施策】の2に記載のように富山県美術館においては、鑑賞するだけでなく、「見る」「創る」「学ぶ」という双方向の美術体験活動を展開することとしており、県内外の作家や富山大学芸術文化学部など幅広い方々との連携・協力を図りながら取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	利賀のSCOTやとやま世界こども舞台芸術祭は、県内よりもむしろ世界での知名度が高い。県内の一般の子どもの参加がまだ足りず、学校との連携が必要。	【取組みの基本方向】において、子ども・青少年の文化活動の充実について記載。また、舞台芸術祭に係る学校との連携については、これまでも学校を通じて全小中学生に対して案内チラシを配付するとともに、高校生に対する公演の集団鑑賞(無料)を案内しており、今後も継続してまいりたい。
第1回 審議会	子どもが芸術文化活動に出会い、親しみ、参加し、交流し、発信していくことが必要であるが、スポーツの世界だけでなく、グローバル化の時代、芸術分野でも世界に羽ばたく人材の育成が重要である。	【主な施策】の4において、文化の次世代の担い手の育成について記載。芸術文化指導者招へいなどを通じた若手芸術家等の育成、学校との連携による鑑賞体験教室やコンクールの実施など、次世代を担う子ども・青少年の文化活動の充実に向けてまいりたい。 なお、未来17の【主な施策】の1において「国際的な視野を持つ次世代を担う人材育成の推進」を掲げている。
第2回 未来部会	(芸術文化分野における)レベルの引き上げには、よき指導者が必要であり、現在の指導者招へい事業などにバラエティを持たせるなど施策の見直しも必要なのではないか。	【主な施策】の4において「芸術文化の指導者招へいなどを通じた若手芸術家の育成」を記載。ご提言の趣旨も踏まえながら、今後とも、優れた専門家の招へいに取り組んでまいりたい。
第2回 未来部会	博物館施設は、地域のボランティア等の活動の拠点として求められている。富山県美術館のコンセプトに地域の拠点という文言が入っているならば、人が見える形の文言を入れてもらいたい。	【主な施策】の2において、施策として「美術館ボランティアとの協働によるワークショップや創作体験活動等の促進」を記載。
18 スポーツに親しむ環境づくりの推進		
第1回 未来部会	スポーツを楽しむ環境づくりについては、いかに運動していない人に興味を持ってもらい、運動を始めるきっかけをつくるかが大切である。	【主な施策】の1において、「年齢や障害の有無等に関わらず気軽にスポーツ活動に参加できる機会づくり」を記載。 今後も、より多くの県民が主体的にスポーツに親しむことができる機会の充実に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	学校における体育の授業が重要になってくる。今後は学校、地域のスポーツクラブ、そして家庭がうまく連携しながら、児童・生徒の体力、運動能力を向上させていく必要がある。	【取組みの基本方向】において、「学校や家庭、地域が一体となった、子どもたちの運動習慣の定着と体力の向上の取組みの推進」を記載するとともに、【主な施策】の2において、「地域のスポーツ人材活用による幼・保・小・中が高教員等の指導力向上と体育授業等の充実」を記載。 ご意見の趣旨も踏まえながら、今後も、地域や家庭と連携し、運動好きな子どもの育成に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	スポーツの関心は非常に高まってきているが、国民の考え方として、これまでの健康志向の運動はスポーツとして考えなくなってきた。それがこういう調査での低い数値に現れているのではないかと？スポーツ実施率の調査項目を見直すことも検討してはどうか。	国では、スポーツを競技的なものだけでなく健康維持や仲間との交流などを目的とするものもスポーツとして捉え、県においても、散歩や健康体操、サイクリングなども含めて調査を実施しており、ご提案の内容については、今後の調査実施の際、国の調査内容等を踏まえ検討してまいりたい。
第1回 未来部会	「幼児期の体力向上」という言葉が出てきているが、スポーツテストや体力テストをして、その数値から何か目標数ができるのか。幼児期は体を動かすことが好きな子を育てるとというのが、一番の目標ではないか。	【主な施策】の2において、「元気づ育成長計画やみんなでチャレンジ3015の継続による運動やスポーツに積極的に取り組む子どもの育成と体力向上の推進」を記載。 今後も、地域や家庭と連携し、運動好きな子どもの育成に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	新たな、スポーツに親しむ方々を取り入れるためにも、子ども、大人、高齢者まで、楽しめるような全天候型の新たな施設の建設を要望。	県民がスポーツに親しむ環境づくりとして、【主な施策】の1において、「子どもや若者、高齢者、障害者など幅広い県民が楽しめる文化スポーツ施設の整備等によるスポーツの環境の充実」を記載し、既存施設の機器等の整備や有効活用も含め幅広く検討していくこととしている。 なお、ご要望の大規模な公共施設の整備については、慎重な意見も見受けられることから、平成29年度に他県の施設や県民のニーズ等の調査を行うこととしている。

会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
第1回 審議会	子育てをしている男性、女性から多く出た意見だったが、子ども、大人、高齢者まで楽しめるような全天候型の文化スポーツ施設、ある程度大きな規模のアリーナみたいなものの建設について盛り込んでほしい。	同上
第1回 総合部会	生涯スポーツや健康寿命の取組みなどによって、地域の医療費がどれだけ削減されたかなどの具体的な数字を出すことはできないか。	医療費の削減については、様々な要因が影響することから、具体的な削減額を出すことは困難と考える。 【取組みの基本方向】において、県民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実を記載しており、今後も県民がスポーツに親しむことができる環境づくりを推進し、スポーツ人口の拡大や健康寿命の延伸に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	若者・働き盛りの(1)文化・(2)スポーツに触れる機会が都会に比べて不足しており、機会を増やしていくことが必要	【主な施策】の1において、「年齢や障害の有無等に関わらず気軽にスポーツ活動に参加できる機会づくり」「みるスポーツの機会づくりの推進」を記載するとともに、【主な施策】の4において、「プロスポーツチームと連携した、幅広い県民が参加・交流するイベント等の開催」を記載。 今後も、より多くの県民が主体的にスポーツに親しむことができる機会の充実に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	県内出身のトップアスリートが引退後に、指導者として活躍できる場を提供できれば、高いレベルでの指導ができ、選手の育成につながる。	【取組みの基本方向】において、「スポーツに関わる多様な人材の育成と活用」について記載している。 個別の取組みについては、【主な施策】の3「スポーツを支える人材の育成と活用」における個別施策の中で、競技団体等の意見も伺いながら検討してまいりたい。
第2回 未来部会	スポーツにとって企業は大きな力。政策未来18の具体例に「プロスポーツと連携した地域の活性化」とあるが、「企業」という言葉を入れることで、スポーツの力で地域・県全体が活性化すると思う。	【主な施策】の4を「プロスポーツや企業と連携した地域の活性化」に修正するとともに、その施策として「企業と連携したスポーツ参画の取組みの推進やスポーツ環境の充実」を記載 個別の取組みについては、今後検討してまいりたい。
19 全国や世界の檜舞台で活躍する選手の育成		
第1回 未来部会	競技力向上の取組み成果は少しずつ出てきている。掲げている施策を継続拡充していくことが大切であり、毎日の積み重ねが世界に羽ばたく選手を育成させると思う。そういったなかで「東京オリンピックに的を絞った」という表現はいかがなものか。東京オリンピックはあくまで通過点としながら、今後さらに何とかといったそういうような内容の文章にしてもらいたい。	【取組みの基本方向】において、「2020年東京オリンピックに一人でも多くの本県出身選手を輩出」との表現を「オリンピックや種目別国際大会」に修正するとともに、「次世代の選手達の活躍が期待される競技への強化支援や継続した指導体制の推進」を記載し、【主な施策】の「1 全国の檜舞台で活躍できる選手の育成」「2 世界レベルのトップアスリートの育成」において、強化施策を記載。 今後も、医科学サポートの充実や指導者の資質向上を図り、本県競技力の向上に取り組んでまいりたい。
第1回 青年 委員会	5路線ある国のいろんなスポーツをやっている方々との交流なども、どんどん普及させて、路線充実につなげていけば面白いのではないか。国際交流において、語学交流だけでなくスポーツを通じた交流なども連携して実施すべきではないか。	【取組みの基本方向】において、「富山きときと空港や北陸新幹線によるアクセスの利便性など、優れた練習環境をもつ県内の充実したスポーツ施設を活用したスポーツ合宿の誘致の推進」を記載するとともに、【主な施策】の3において、「優れた練習環境を活かした全国的・国際的スポーツ大会やオリンピック事前合宿等の誘致」を記載。 今後もオリンピックの事前合宿等の機会を活用し、スポーツを通じた国際交流に取り組んでまいりたい。
20 多様なボランティア・NPO活動の推進		
第1回 未来部会	ボランティア活動を行ううえで知っておくべきことに気付いたと参加者から好評だった「高校生のためのボランティア講座」がなくなったことは残念。これまで学校教育の中心はボランティア「体験」であったが、実際に「理解」するための授業が十分でない。ボランティアを人間力の育成などに活用していくという視点も必要。	高校生「ボランティアパスポート」活用事業は、主体的にボランティア活動に取り組んでいこうとする意識を高めることや、高校生の社会参画意識を醸成することを目的とした事業であったが、高校における社会貢献活動が活発化し、所期の事業目的を達成したと考えられたことから廃止とした。 県教育委員会では、【取組みの基本方向】に記載のとおり、今後ともボランティア活動への参加を促進するため、「魅力ある教育活動支援事業」等を活用しながら各校における生徒会活動や課外活動におけるボランティア等社会参画に関する取組みについて支援してまいりたい。
第1回 未来部会	南砺市で行っているボランティアポイント制度の導入も今後の検討材料ではないか。	ご提案のボランティアポイント制度については、主な施策の「1 幅広い県民のボランティア活動への参加促進」などにおける個別施策の中で検討してまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第2回 未来部会	NPOの活動基盤の安定強化という観点から、空き家を使ったNPOの活動拠点の整備の推進などを入れるといい。また、「空き家対策」のように他の政策と絡めて推進する具体例を載せることはできないか。	【主な施策】の2において、支援する「NPOの組織・財政基盤の充実を図る活動」例のひとつに「空き家の活用等による活動拠点の確保」を追記 今後とも、NPO法人の活動基盤の強化の支援に努めてまいりたい。
第2回 未来部会	福祉分野では「福祉教育」という言葉を使用している。文部科学省のいう「生きる力を育む」、「人間力を育む」にも共通し、ボランティア体験を通じて社会を知るなど広い意味で使うことのできる言葉であり、政策の中でこの文言を活用できないか。	ご提案の「福祉教育」の「ボランティア活動を通して社会について知る」「人との関わり方について学ぶ」といった趣旨については、人づくり分野の中で反映させているところである。 今後、若者のボランティア活動への参加促進に向けた取組みを進め、本趣旨の充実を図ってまいりたい。
第2回 未来部会	取組みの基本方向に、「県民ボランティアセンターの充実」とあるが、抽象的で主な施策の項目と具体例のなかでどれに当たるかが見えにくい。見出し的にも関連性が見て取れるほうがよいのではないか。	注釈において、県民のNPO活動への理解とNPOの自立的な活動を促進を支援する富山県民ボランティア・総合支援センターの役割・施策について記載。今後とも施策の充実を図ってまいりたい。
2 1 若者の自立促進と活躍の場の拡大		
第1回 青年委員会	県の若者相談の窓口から、職場体験やボランティアの希望者があれば、積極的に社会福祉法人や介護分野のボランティア、見学実習、就労体験などを使っていただきたい。	【主な施策】の1において、「ヤングジョブとやま」など若者の就業、自立を総合的に支援する体制を整えるとともに、2において県内企業・団体でのインターンシップを促進するなど早期からのキャリア教育の推進について記載。 今後とも、相談者の希望に応じた就業支援やインターンシップの参加促進に取り組んでまいりたい。
2 2 男女共同参画社会づくり		
第1回 未来部会	例えば育休明け直前の1週間でも2週間でも男性が育児全部を引き受けるくらいの体験をさせることが飛躍的な自覚に繋がる。こうした取組みを行政で推進できないか	未来22の【主な施策】の1において、「性別による固定的役割分担意識の解消」について記載。 また、未来3の【主な施策】の3において、「男性の家事・育児への参画の促進」についても記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き、大学生等を対象にしたイクメン・カジダン出前講座の開催など、男性の主体的な家事・育児等の参画促進に取り組んでまいりたい。また、個別の取組みについては、今後検討してまいりたい。
第1回 未来部会	依然として夫が外で働き、妻は家庭を守るという考え方が強く、男性が子育てに参加するのが当たり前という考え方へのマインドチェンジが大切。	【主な施策】の1において、「性別による固定的役割分担意識の解消」について記載。 引き続き、大学生等を対象にしたイクメン・カジダン出前講座の開催など、男性の主体的な家事・育児等の参画促進に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	父親が家事や家庭や子育てに関わるができる時間が少ない。働き方ばかり言っているが、ワークライフバランスのためのサポートの仕方を、意識の部分から醸成していくことが必要。	未来22の【主な施策】の1において、「性別による固定的役割分担意識の解消」について記載。 また、未来3の【主な施策】の3においても、「男性の家事・育児への参画の促進」についても記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き、大学生等を対象にしたイクメン・カジダン出前講座の開催など、男性の主体的な家事・育児等の参画促進に取り組んでまいりたい。
第1回 未来部会	女性がリーダーとなるには、続く女性を引っ張っていくという意識を持つことが重要。20-30代の女性をいかに上の役職を目指してもらうかという課題については、企業側努力も必要。	企業等における女性の管理職登用については、人づくり8「女性のキャリアアップ、管理職への積極的な登用などの推進」の【主な施策】の1及び2において、「リーダーを目指す女性のキャリアアップ支援」、「企業等における女性の管理職登用や能力開発の促進」について重点的に記載。 ご意見の趣旨を踏まえ、今後、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出支援などを実施してまいりたい。
第2回 総合部会	「イクボス」ネットワークの構築については、宣言だけでなく会社の中で働き方を変える環境が大切。家庭における父親の意識改革も必要である。	「イクボス」ネットワークの構築を含む働き方改革の推進については、人づくり10において記載。 家庭における父親の意識改革については、未来3の【主な施策】の1において、「男性の家事・育児への参画の促進」として新たに柱立てして記載。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第1回 審議会	夫の子育て参加について、富山県が47都道府県中で最下位との調査結果がでたが、男女ともに協力するという意識改革や教育が必要である。	未来22の【主な施策】の1において、「性別による固定的役割分担意識の解消」について記載。 また、未来3の【主な施策】の3においても、「男性の家事・育児への参画の促進」についても記載。 引き続き、大学生等を対象にしたイクメン・カジダン出前講座の開催など、男性の主體的な家事・育児等の参画促進に取り組んでまいりたい。
25 自然や歴史・文化など地域の魅力のブラッシュアップと世界文化遺産登録の推進		
第1回 総合部会	それぞれの地域が足りないものを補い合う、あるいは魅力をアピールしながら共生する仕組みづくりが必要ではないか。黒部ナンバーなどができればいいと思っている。それぞれの自分の地域のアピールを元気よくやっていただきたい。	【取組みの基本方向】において、地域の魅力の発掘・再発見のみならず、県内外に情報発信する取組みを促進することとしている。 また、【主な施策】の2において、地域の特色や強みを活かした住民主体の地域づくりを支援することとしており、その中で、地域間での連携についても進めてまいりたい。
第1回 未来部会	時間をどう使うか、いろんな情報を楽しんだり、情報を出したりというところで生きがいにつながっていると思うが、アンケート調査を見ると文化や景観についての要望が低い、質の高い情報という点では、文化力がこれからの勝負所、文化力が実感できるような取組みを推進してほしい。	【取組みの基本方向】において、地域の魅力を発掘・再発見する取組みを促進することとしている。特に、伝統文化・伝統芸能については、保存・継承のみならず、その魅力を県内外に情報発信するとともに、観光資源として磨き上げる取組みを推進することとしている。
第2回 未来部会	県外に出た若者が富山に戻ってくるには、便利という合理的な理由と街や文化に愛着を持ってもらうことがポイントになってくる。若者が街で楽しめるような、街に出なくなるような景観、街、地域にしていけるとよい。	【取組みの基本方向】において、地域の魅力や伝統文化・伝統芸能の魅力を県内外へ情報発信する取組みを促進することとしており、今後とも、若者に街や文化に愛着を持ってもらうよう、努めてまいりたい。 また、【主な施策】の2において、地域の特色や強みを活かした県民主体の地域づくりや市町村の先導的なまちづくり事業を支援することとしており、関係機関と連携しながら、街に出なくなるようなまちづくりについても進めてまいりたい。
26 地域の個性を活かした景観づくり		
第1回 未来部会	景観づくりには、県民が美しいと感じてもらうこと、現状が恥ずかしいものではないかを自ら考えてもらうことが重要である。	【主な施策】の3において、景観フォーラムの周知を記載するとともに、より多くの県民に景観について考えてもらえる機会の提供できるように取り組んでまいりたい。
第2回 未来部会	景観について、海外の人に美しい富山県を心の中に留めてもらうという点からも、新幹線に限らずに、幹線道路も含めて、県全体をきれいに見せてほしい。	新幹線だけではなく幹線道路においても屋外広告物の規制を既に行っていることから、【取組みの基本方向】において、幹線道路でも実施していることがわかるように内容を修正。
27 豊かで美しい農山漁村の持続的な発展と都市との交流		
第1回 青年 委員会	中山間地域で移住促進を行っているが、地元だけでは対応できないことがあり、県の支援が必要と感じている。	ご提案の趣旨については、【主な施策】の3において記載する、「とやま帰農塾」等の施策を通じて、地域の取組みに支援してまいりたい。 なお、平成29年度の「とやま帰農塾」については、移住に重点を置いたメニューを新設するなど拡充をしたところである。
第1回 安心部会	散居村など水田がきれいなどところがあるという印象であるが、最近では耕作放棄地が増え、荒地地となって以前とは違った景観となっている。また、イノシシなどが住みつき、農作物への被害にもつながっている。そのため、耕作放棄地をトラクターですき込むなどにより水田の機能の維持ができないか。所有権などの問題もあると思うが、水田の機能維持という点で土地の所有者に理解を得ることなどで対応できないか。	イノシシ等による農作物被害対策については、【取組みの基本方向】において、「電気柵の設置や捕獲活動」等の対策について記載するとともに、【主な施策】の2において、「富山県イノシシ被害防止対策方針に基づく対策の推進」等を記載。 また、耕作放棄地となった水田の機能維持のご提案については、【主な施策】の1において、「保全管理活動への支援」、「多面的機能に対する県民の理解の醸成」を記載。なお、多面的機能支払の農地維持支払等を活用し、水田の機能維持のための取組みに引き続き支援してまいりたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
28 水と緑の森づくり・花と緑の地域づくり		
第1回 安心部会	木で小学校を建てるということに富山県が取り組んでいるが、木を切って、使い、育てるという木の文化を大切にす先進県として、森林活用のお手本として全国に発信して欲しい。	【主な施策】の2において、「公共施設等の木造化や、木育の推進」を記載しており、引き続き広く普及してまいりたい。
その他全般（未来）		
第1回 審議会	アンケートで富山の魅力形成との項目があった。そこで教育環境や子どもが上位にきている。将来世代に向けて種をまくものが何かを考える必要がある。	教育は人づくりの要となるところであるが、本計画においても、人づくりを基本政策を支える重要政策として位置づけたところである。 ご意見の趣旨については、重要政策「人づくり」、基本政策「未来」において、グローバル化、情報化など社会が急速に変化するなかで生じている教育に関する様々な新しい課題に対応し、将来を見据えた施策を記載し、未来を担う人づくりに取り組むこととしている。
第1回 審議会	日本語ができなければ、他の教科も、グローバルもだめであり、日本語を教育の中で重点的に行うことが必要である。	国語の力の向上は、全ての教科の基礎となるものである。人づくり1「優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成」の【主な施策】の1において、知能・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む教育の充実を記載。 また、小中学校では、国語を中心として、授業に新聞等の資料を活用し、文章を要約したり、自分の意見や調査結果をわかりやすく文章に書いたりする活動を行い、読解力や思考力、表現力を伸ばすよう努めている。 高校においては、各教科において、言語活動をより一層促進するため、「アクティブ・ラーニング型の授業」をテーマとする講座を開催し、授業改革を進めている。 今後とも実社会で生きる言語能力の育成に努めていきたい。
第1回 総合部会	日本語をきちんとやることはもちろん大事だが、英語などの外国語の特区分みたいなものを作って県全体で盛り上げるような仕組みになればいいと思う。	未来6の【主な施策】の2において、小学校専科教員（英語等）の配置による専科指導の充実について記載し、未来9の【取組みの基本方向】において、国際的な視野を有するグローバル人材の育成する教育の充実について記載しているところである。 なお、本県では、黒部市が国の国際化教育特区の認定を受けて、小中学校で「英会話科」を実施しており、その取組みの成果等の普及を支援してまいりたい。 また、平成24年度より、国の指定を受け、高校の拠点校4校において、先進的な実践を行い、中学校や他の高校に授業を公開するほか、夏の英語教員研修会では、中高合同の意見交換会を実施するなど、中高連携を図っている。今後とも、小中高校の一貫した英語教育の充実にも努めることとしたい。
第1回 青年 委員会	子育て支援について、様々な立場からの意見や思いが集まるなかで、一番大事にしなければならない「子どもの気持ち」だけが置き去りになっていないか。共働き家庭が増え続けるなか、一層不可欠となる子育て支援ではあるが、「その施策は子どもたちにとっても利点になるか」という子どもの視点に立つことが必要。	未来全般において、子育て支援に関する政策を掲げているところであるが、ご意見の趣旨を踏まえ、今後、子育て支援の具体的な施策の検討にあたっては、子どもの視点にも配慮した施策となるよう十分留意してまいりたい。
第1回 総合部会	人口減少問題に関して、地方同士で人の取り合うゼロサムゲームをしているのは仕方がないので、日本全体で人口を増やすという視点が必要。「氏より育ち」という言葉もあるが、人々にとって住みよい生活というものがないかということを考えている。	国ベースでの人口減少対策を考えた場合、やはり日本全体の出生数の増加を図ることが大切であり、全国で子どもを生み育てやすい環境づくりを進める必要があることから、本県でも、住みよい生活環境の整備に努めているところである。 また、合計特殊出生率が全国最低の東京から出生率の高い地方への人の流れをつくるため、地方自らが努力するとともに、東京一極集中を是正する抜本的な対策を国に対して求めていきたい。

会議 ・回数	委員意見	具体的な対応内容
第2回 未来部会	教育の視点では10年の計画期間は短く、目標を実現させるためには、すぐに手を打つべき施策、成果は少し先になるが種を撒いておく必要があるものなど、優先順位を意識する必要がある。	教育に関する施策については、新しい学習指導要領への対応、いじめ・不登校対策、教員が児童生徒と向き合いやすい環境整備など喫緊の課題に対する対応を記載。 また、現在審議中の国の第3期教育振興基本計画において、急速な技術革新やグローバル化の進展、人生100年時代など2030年以降の社会を展望した教育政策も検討されているが、こうした動きも踏まえ、情報活用能力の育成やグローバル人材の育成、ライフステージに応じた多様な学習機会などについても記載している。 今後、こうした施策の実行にあたっては、その優先順位も意識しながら取り組んでまいりたい。
第2回 未来部会	子ども・先生・保護者をサポートする体制や年齢によるライフプランが見える体系など、全体的な政策間のつながりも確認する必要がある。	未来1の少子化対策においては、各世代におけるライフプラン教育についてよりわかりやすく表現することを心掛けたほか、教育分野の各政策でも学校・地域・家庭の教育をサポートする体制づくりの充実を図ることとしている。
第2回 未来部会	全体の計画をみて、指導者育成の記述が少ない。スポーツに限らず、文化でも、指導者がいてこそ初めて目標が達成される。若者にとっては特に重要。	ご意見の趣旨を踏まえ、答申に向けて人づくり分野をはじめ、あらゆる分野について施策の充実を検討してまいりたい。
第2回 未来部会	政策の順番、文言は、2、3年先を見通して、少し時代を先取りした形で作らないと計画が参照されないものになってしまう可能性がある。	ご意見の趣旨を踏まえ、答申に向けて記載内容が時代を先取りしたものとなるよう、全体として引き続き検討を進めてまいりたい。
(活力分野にかかる意見)		
第1回 未来部会	新たに外から来てくれた大学生に富山の良さをしっかりと分かってもらうためには、働く場所をしっかりとサポートしなくてはならない。企業のさらなる協力が必要。	活力10「雇用の確保と人材の育成」の【主な施策】の1において、インターンシップに関する施策を記載するとともに、引き続き県内企業や経済団体と連携しながら充実したインターンシップの受入態勢の整備に努めてまいりたい。
(安心分野にかかる意見)		
第1回 未来部会	避難訓練はよく行われているが、自分の身を保った後に被災者をどう支援するかという部分が不足している。自分たちが助かったら終わっているのが今の避難訓練であり、若い世代が元気な学生や生徒ができることを避難訓練に盛り込むことが重要。	安心20「消防力や地域防災力等の強化による防災・危機管理体制の充実」の【主な施策】の3において、「県民参加による実践的な訓練の実施」を記載し、個別の取組みについては、今後検討してまいりたい。

